

ゆっくりでいい 迷いながらでいい  
とにかく自分の足で歩いてみよう  
そこには何かが見えてくるはず  
歩けるよろこび 生きるよろこび

高野・熊野へ

# 歩いて見よう 新山道

## 第1回 熊野古道 紀伊路

山中溪(大阪府阪南市)～湯浅

監修・文：まつした ちえ(わかやま絵本の会代表)  
イラスト：いこま わかこ(わかやま絵本の会)



### ちょっと寄り道

#### 山中溪から紀伊駅まで

**音無滝**  
江戸時代に編纂された『紀伊名所図絵』の中山王子周辺の図に「音無滝」が描かれています。元気な人は中山王子から西に寄り道をして、現在廃校になっている山口小学校滝畑分校を右に見てさらに西進、右手の神社に寄ってみましょう。神社の戸を開けて入らせてもらおうと、雨の翌日などはみごとに滝が見られます。

**山口神社**  
小野小町のお墓を訪ねて南進、右手に曲がり、前鬼・後鬼をひかえた役行者像を左に見て小道を進み、右手に寄り道していきましょう。坂を上がりきったところが山口神社です。ここから高積山が真正面に見えます。帰りはたまねぎ畑を左に入り、白鳳時代のお寺の礎石も見てみましょう。

#### 紀伊駅から伊太祁曽駅まで

**高積山**  
高積山は、ちょっと寄り道するには時間がかかるので、別の日にでも登ってみましょう。石垣を積んだ山頂の高積神社は、古いヤマモモの木もあり、いい杜です。山頂までお詣りにいけない人のために下に鳥居が立っていますが、南向きではなく、山頂を拝むように東を向いているので「この神さんは女神で、お伊勢さんに嫁いたが、あばたがひどくて帰され、伊勢が恋しいと伊勢方面を向いているのだ」という話も生まれました。

#### 伊太祁曽駅から海南駅まで

**薬王寺**  
熊野古道は伊太祁曽神社の西を南進、阪和自動車道の下をくぐり南に向かいますが、海南市に入る手前に薬王寺があります。昔、お寺は病院でもあったので、このお寺も薬の施しをしていました。その頃のお話が『日本霊異記』中巻・第三十二話に紹介されています。借金をして返さずに死んだ男が牛に生まれ変わり、働いて借りを返すという話ですが、昔は借金を返さないで、死んだ後は動物に生まれ変わって人間にこきつかわれる、と言われていました。

川辺王子すぐそばのクログネモチとお堂のどかで、ホットするよこのままの景色でいてちよだい

中山王子をすぎてなほ山峠を歩いていると車がびゅんびゅん!!これ 熊野古道?! ...歩道があたらしいのにな...

何のために歩くの? ...歩道があたらしいのにな...

和歌山市内のアンティーク民家!! おぞー!!

OH~! 紀ノ川!! あの橋をおたるとー!

中村王子からしばらく進んだところの長〜い木のトンネルの 方待神社

お怪にたつてウレシイ

みかんのふるさと... あ〜なんだか感涙...

湯浅町「道町通」も旧街道の雰囲気ているんだ。お店が並ぶ中、昔の古い看板が残っていたり、店の前にはプランターなどにお花が植えられてたり

あたし、かれこれ170年ちかくここで道案内してるよ

系我峠をこえると古道沿いに絵が飾られていて、逆川王子からちょっと進んだ所には大きな「系我峠の絵」が... 高木生か「紀伊国名所図会」を見て描いたらしい...とても楽しい絵だからひと息つきながら鑑賞...

系我峠をこえると古道沿いに絵が飾られていて、逆川王子からちょっと進んだ所には大きな「系我峠の絵」が... 高木生か「紀伊国名所図会」を見て描いたらしい...とても楽しい絵だからひと息つきながら鑑賞...

湯浅に入ったら、町並みをぶらぶら散歩してみましょう。「角長」さんの醤油の資料館も覗いてみましょう。もともと醤油は、味噌からしみてた汁でした。その味噌を中国の径山寺から持ちかえたのが、由良町の興国寺の開山、法燈国師です。江戸時代、醤油は船で運んでいましたが、旗印が山にキの字で、お殿さまの印と同じだったため、遠慮してキをひっくり返して山印にサとしたそうで、今のヤマサの始まりです。

#### 海南駅から紀伊宮原駅まで

**峠のお地藏さん**  
塔下王子のお地藏さんは、昨年10月にご開帳されましたが、慈愛に満ちたお顔の大きなお地藏さんでした。地藏峰寺の裏手の御所の芝にもぜひ寄って景色を眺め、下りにはすぐ左手の池の鯉に、パンや糞をあげましょう。この池の鯉はお地藏さんの飼いのものといわれ、昔は鯉の生き血を吸って難病を治し、代わりの鯉を奉納したといわれています。

**福勝寺の裏見の滝**  
橋本王子の阿彌陀寺本堂の右手を上ると、左手に岩屋山福勝寺の石段が見えます。その手前が、日本で最初に橋が植えられたと伝わる場所です。福勝寺のお堂の裏手にも回ってみましょう。海南市冷水浦の喜六太夫がこの滝に通い、ここで蓮如上人と出会ってすぐさま弟子になり、自宅を道場にして浄土真宗を弘めたという、紀伊半島における浄土真宗発祥の地です。また滝の手前の大杉には天狗がいて、観音様に悪戯をいましめられて、あやまった時の手形がぬれ縁に残されていますから、お見逃しなく。

#### 紀伊宮原駅から湯浅駅まで

**系我稲荷神社**  
江戸時代にみかんの苗木を九州八代から内緒で持ち帰ったという、伊藤孫右衛門さんの子孫の方に聞いた話では、系我のお稲荷さんは日本で一番古いと伝わっています。得生寺の南ですが、大きな楠があります。とりに有田市歴史民俗資料館があるので、ぜひ寄り道してください。

**醤油と味噌**  
湯浅に入ったら、町並みをぶらぶら散歩してみましょう。「角長」さんの醤油の資料館も覗いてみましょう。もともと醤油は、味噌からしみてた汁でした。その味噌を中国の径山寺から持ちかえたのが、由良町の興国寺の開山、法燈国師です。江戸時代、醤油は船で運んでいましたが、旗印が山にキの字で、お殿さまの印と同じだったため、遠慮してキをひっくり返して山印にサとしたそうで、今のヤマサの始まりです。



晴れの日もあれば 雨の日もある  
 風の日もあれば 嵐の日もある  
 一期一会  
 その折々の自然に感謝して

高野・熊野へ

# 歩いて見よう 祈り道

## 第2回 熊野古道 紀伊路

湯浅～田辺

監修・文：まつした ちえ（わかやま絵本の会代表）  
 イラスト：いこま わかこ（わかやま絵本の会）



### ちょっと寄り道

#### 湯浅駅から紀伊内原駅まで

##### 鹿ヶ瀬峠の怪

『今昔物語集』に鹿ヶ瀬峠のふしぎな話が紹介されています。一観というお坊さんが熊野まいりの途中、どくろの舌だけが動いて法華経を唱えているのを見て、ここで夜を明かすと、円善という比叡山の僧が夢に出てきて、法華経を半分しか読まないうちに死んでしまったので、残りを死んでからも唱えているのだ、と申しました。大峠の地蔵さんを過ぎてすぐ左に入ると、少し広くなったところが法華の壇で、毎年地元の人たちが「円善まつり」をして、いき倒れた人たちを供養しています。

#### 紀伊内原駅から

熊野古道は東南にむかって、ひたすら熊野をめざしますが、近世になると船で日高の港まで来て、海辺の王子社を回ってから東へ合流しました。別の日にでも海辺の王子社を回っててください。この辺りで 神社はどこですかと聞くと、オウジサンか？と聞き返されます。つまり王子とは沖縄でいうオウチ、海神様、海からやってきた神様だということがわかります。辺路（ヘチ）というの縁（フチ）という意味で、陸の縁、つまり海岸をまわるのが本来の修行だったのです。

#### 御坊駅から田辺駅まで

「安珍と清姫」ゆかりの場所は、中辺路町の真砂から川辺町の道成寺まで、熊野古道沿いのあちこちに見られます。真砂の清姫の家に泊まった安珍は、熊野からの帰りには必ず寄ると約束をしますが、修行僧の身であることから清姫をさけて別の道を帰ってしまいます。それを潮見峠の杉の上から見つけた清姫は、くやしさをあまり杉の木をねじまげて（捻木）「待てい！」と追いかけていきます。途中でのどが乾いて水を飲んだ所が田辺市の龍泉寺、一服したところが御坊市の「腰かけ岩」、そうりを脱ぎすてた所が「そうり塚」といった具合に、安珍を追いかけて道成寺までやってきますが、鐘の中に隠された安珍を焼き殺したあとは、真砂に帰って淵に飛びこんで死んでしまいます。でも『今昔物語集』では、二人とも法華経の功德によって成仏しています。



道成寺の縁起、髪長姫のお話は「安珍と清姫」よりも知られていないようです。この辺りは、昔は九海土の里といいましたが、その村おさ夫婦に授かった一人娘の髪の毛が、いつまでたっても生えてきませんでした。ある日のこと、海から拾いあげた観音様の功德か、娘に長いみごとな黒髪が生えてきて、その髪の毛のおかげで、ついには文武天皇の后になりました。髪長姫が、その観音様をおまつりするために建てたのが道成寺です。この時の担当者が紀道成でしたので、その名前をとって道成寺となりました。ここから東の川辺町三百瀬に、道成をおまつりした紀道神社がありますので、別の日にでもおまいりしてください。

### 切目駅

ナギの葉  
 熊野の神様はナギの葉に乗ってインドから飛んできたという話がありますが、ナギの葉をよく見ると葉脈が平行に走っています。この葉を引っ張ってみると、なかなか切れません。それで夫婦の縁が切れぬお守りといわれています。また匂いがあるので魔よけにも使われますが、なんでも切目の神様は荒っぽいので、熊野へおまいりして帰る時には、せつかくの御利益を奪いとられるというので、切目が近づくとなギの葉を頭にさしたり、きなこを顔に塗りつけて神様を嫌がらせて通りすぎたということです。用心、用心。

### 岩代駅

国道4号沿いに、有間皇子が無事を祈って杖を結んだといわれる「結び松」がありますが、少し南に進んで岩代駅の手前から海辺に出ると、小さくて可愛い岩代王子があります。海が目の前に広がっていて、とてもどかです。このまま浜辺を歩いて千里王子へ行くには潮の引いた時刻をねらうしかありませんが、たいていは途中から町中を歩きます。運良く浜辺を歩いてみると、ところどころにコンクリートを流したような岩場があります。これが礫岩（れきがん）のさざれ石で、江戸時代の『紀伊名所図会』にも、この辺りの名石として紹介されています。



くるま道は たいへんだ  
森の道は ありがたい  
木々が笑う 草がほほえむ  
味わおう さまざまな道

高野・熊野へ

# 歩いて見よう 祈り道

## 第3回 熊野古道 中辺路 三栖王子(田辺市)～熊野本宮大社

監修・文：まつした ちえ(わかやま絵本の会代表)  
イラスト：いこま わかこ(わかやま絵本の会)



### ちょっと寄り道

#### 田辺市

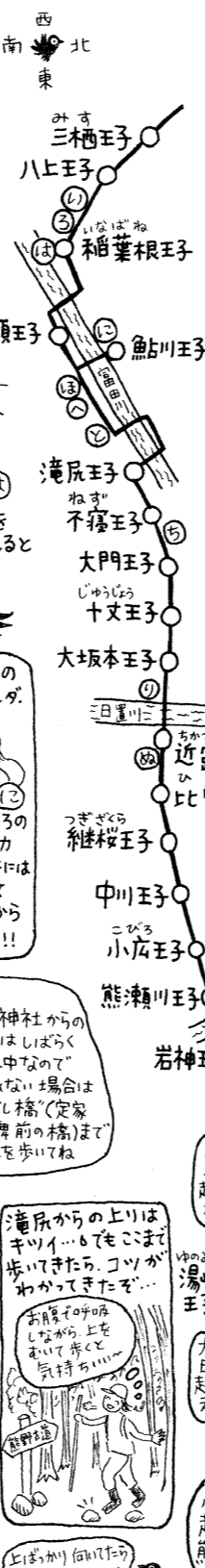
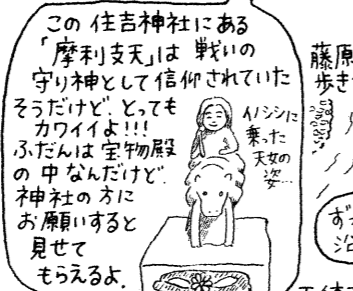
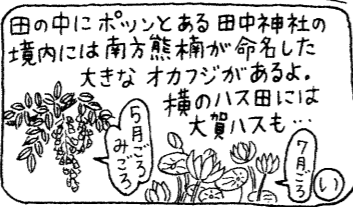
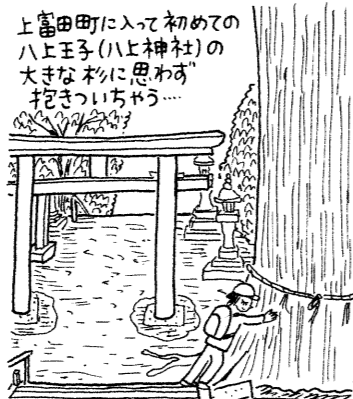
**三栖王子**  
ミニチュアの西国三十三ヶ所観音巡りや四国八十八ヶ所巡りは、熊野古道を歩いていると、けっこうたくさん出会います。ここ三栖王子も、石碑の裏手から登っていくと、岩山が善光寺の境内につながっていて、そこそこに三十三体の観音様が安置されていて、わたしたちを出迎えてくれます。崖を降りた窟にも岩屋観音がおまつりされています。静かで落ち着いたいいお寺ですので、お時間の許す方はぜひおまいりしてください。

#### 上富田町から大塔村

**一の瀬王子**  
一の瀬、二の瀬、三の瀬と、むかしは川を歩いて渡りながらみそぎをしたそうですが、今は橋を渡りますので、ただひたすら歩いて雑念を払い落とすしかありませんね。さて、この辺りでひととき目立つのが、青い空にくっきりと目立つ白い大きなだるまです。「だるま寺」と呼ばれるこの興禅寺には、人間のお墓の何倍もある大きな馬のお墓があります。むかしのことに、当時のおしょうさんが死に、その後を追って何も食べずに死んでいったという賢い馬がいたそうで、絵本にもしましたが、その馬「興禅寺号」のお墓なのです。

#### 中辺路町

**十丈王子**  
「悪四郎山 十丈王子」と『熊野古道かるた』にも読み「枝まげすわる 悪四郎」と『和歌山県50市町村おはなしカルタ』にも読んだのですが、この話は、関東からの熊野詣での人たちでにぎわった頃の、ゆかいなエピソードです。力持ちの悪四郎が、松の枝を曲げて腰掛け、一服していると、関東ベエたち(そうだべエと言うので)も横に並んで座ったのはいいのですが、悪四郎が立ち上がったとたんに松の枝にはね飛ばされて、大空高く飛んでいったという話です。今この辺りに松が見られないのが残念ですが、悪四郎屋敷跡の看板がありますから、このゆかいな話を思い出してください。



**近露王子**  
近露王子の前の民宿「月の家」さんの玄関左手に、タラヨウの木があります。むかしはこれに字を書いたので別名「ふみの木」ともいわれています。楊子や木の枝でタラヨウの葉に文字を書くと、なかなか消えませんが、葉の形をよく見て覚えておくと、けっこう神社などの境内でも見られます。ここから少し進んで左手に入ると野長瀬一族のお墓があります。野長瀬一族は、南北朝時代に楠木正成と南朝方についたことから、中辺路町と大阪府の千早赤坂村とが姉妹提携を結びました。千早赤坂村で以前中辺路町のことを聞きましたが、誰も知らなかったのが残念です。

**継桜王子**  
数本ある大きな杉の木は、北側の枝が折れて、南の方、つまり熊野の方だけを向いているので「一方杉」と呼ばれています。明治時代の初めの国の命令「神社合祀令」で、あやうく伐られるところを、南方熊楠が頑張りぬいて守ってくれました。ほんとうに偉大な人です。ここから下に降りると名水百選にも選ばれている「野中の清水」があります。また上の道に戻って、一方杉の隣の民宿「とがのき茶屋」の横には、奥州の藤原秀衡が植えたと伝わる「秀衡桜」があります。ソメイヨシノよりも遅く咲き、小さな花をつけます。とがのき茶屋のトガは方言で、ツガのことです。モミに似ていますが、日本固有の木です。

#### 本宮町

**伏拝王子**  
この辺りに来ると、今や「ほんまもん」の看板でにぎわっています。朝の連続テレビ小説「ほんまもん」の舞台になった家は、ひところは来客で大変だったそうです。ここに来るまでも、野原にオブジェの並んでいるところがあって、寄り道好きのわたしは思わずその作家を訪ねましたが、英語のできる奥さんは、近頃は熊野古道を歩く外国人の通訳ボランティアをされているそうです。伏拝王子は和泉式部が本宮の神様のありがたいお告げに感謝して、伏して拝んだことにちなみですが、ここから本宮大社はあと一息です。



光る海 青い空  
そよぐ風 木のかおり  
この次 何が待っている？

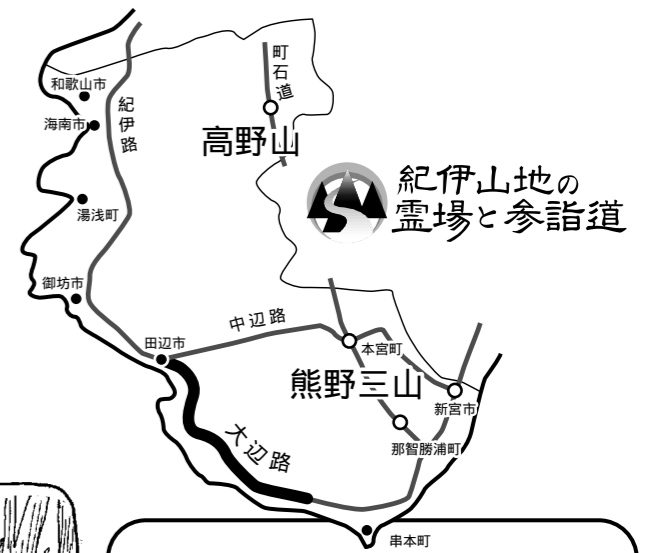
高野・熊野へ

# 歩いて見よう 新し道

## 第4回 熊野古道 大辺路

田辺～すさみ

監修・文：まつした ちえ（わかやま絵本の会代表）  
イラスト：いこま わかこ（わかやま絵本の会）



### ちょっと寄り道

#### 田辺市

**田辺駅前**  
田辺駅前には、田辺の三大有名人として武蔵坊弁慶と南方熊楠と植芝盛平の絵が描かれています。どれも絵本にしていますが、高山寺にある合気道を始めた植芝盛平のお墓が、南方熊楠のお墓よりもずっと大きいので、地元ではこの人の方が有名なんだワと、20年近くも前になりますと思ったものでした。駅前弁慶像の前で写真をとるもよし、ここから通称「親不孝通り」を抜けて少し北に行くと、北新町の商店街の店先に、大辺路と中辺路の分岐の道標があります。この道標は、湯浅の町中の道標とともに、熊野古道中、もっとも大きなものなのです。

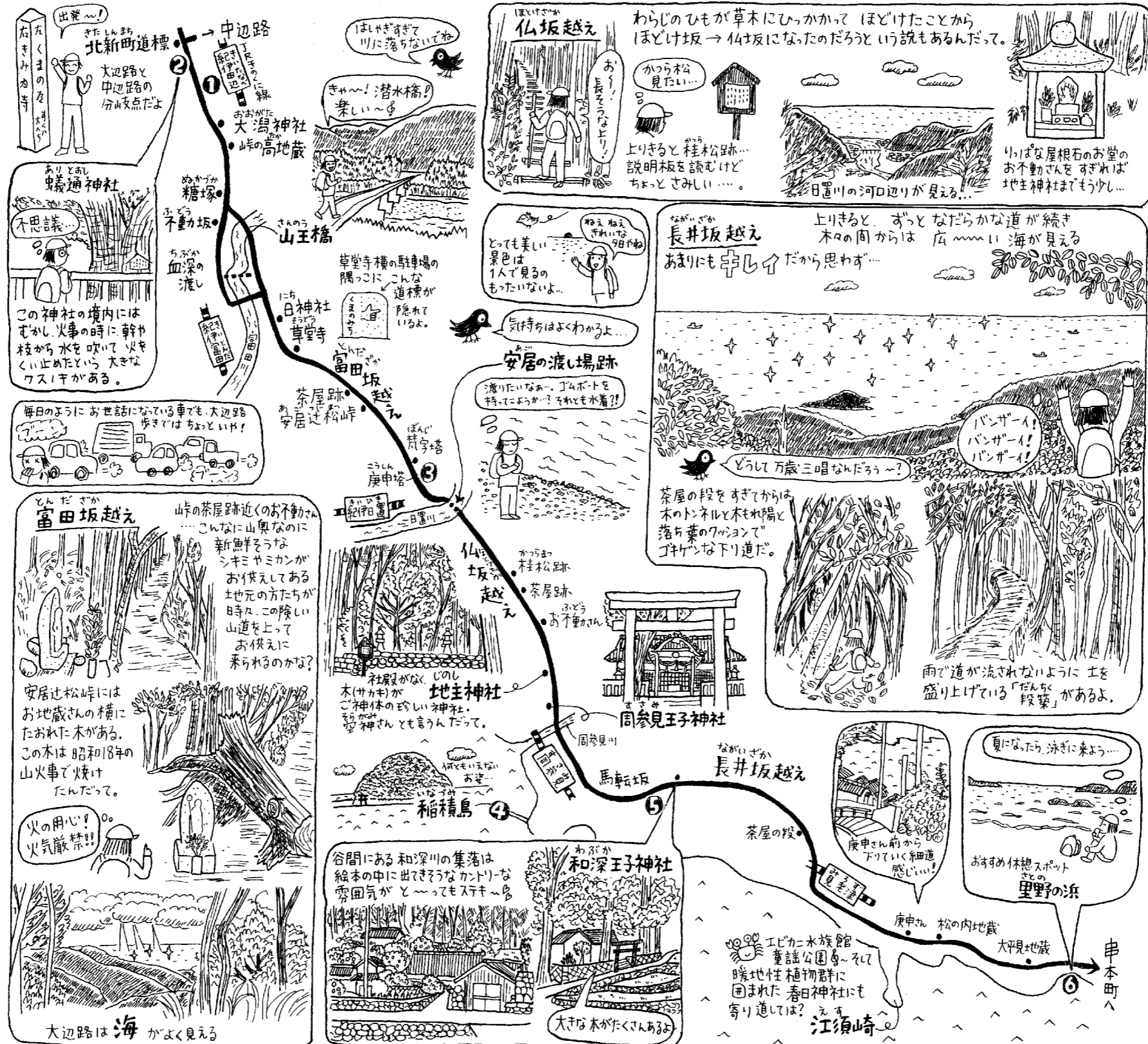
#### 楠

熊野古道を歩くと、大木とよく出会います。それが古道歩きのお楽しみの一つでもあるのですが、北新町の道標からほんの少し南の蟻通神社の境内の大楠は、むかし水をふいて火事の延焼から人々を守ったという話が伝わっています。わたしの父は大正生まれですが、小さい頃は、楠の枝を伐って、どちらの枝から水がたくさん出るかを競って遊んだといひます。暖かいところの木では、楠が一番多く水を含んでいるのでしょうか。

#### 日置川町

#### 庚申さん

中辺路でも大辺路でも、ほんとうにたくさんの庚申さんと出会います。だいたいなものをなくすと、真夜中に庚申さんを縄で縛り、それを出してもらうように願をかけたといひます。今も初庚申の日に、餅まきなどをしておまつりしているところも多いのですが、地元の人たちに聞くと、伝染病から村を守ってもらうように庚申さんをおまつりした、といひます。庚申さんのおかげでこの村には伝染病が入ってこなかった、とも聞きました。庚申さんは、悪者の髪の毛をつかんで、いかめしく突っ立っていますが、昔も今も伝染病は恐いのです。



#### すさみ町

**いなづみさん**  
稲積島のことを地元では「いなづみさん」とよんでいます。弁天さんをおまつりしています。この女神さんに、漁師は毎朝、大漁を祈願して船出するそうですが、この島のもを何かひとつでも持ち帰ると、すごいバチが当たるといひ伝えられています。こういう話を作って島の自然を守ってきたのだと思っていたら、実際にふしぎなことがありました。絵本の取材で稲積島に渡るうとした時、晴れていた空が急に曇りだし、大嵐になって右からも左からも雨にたたかれてビショ濡れになりました。別の日、絵の担当者が行って漁師さんの船で島に渡してもらいましたが、写真が鳥居のところだけ真っ赤になって写っていませんでした。やはり今も不思議の島なのです。

**イルカの家**  
和深王子神社の近くに、イルカの形をした家が目をひきます。いつだったかテレビで「工務店泣かせだったんですよ」と家主が言われていましたが、テレビで紹介されるくらい全国的にも珍しいのでしょうか。この辺りは日当たりもよく、静かで、ゆっくり暮らすには最高のところに思えます。昔はアメリカの兵隊さんのためにレタスを作っていたと道ばたで聞きました。また、コウノトリが越冬していたというのも、驚きでした。今はもちろん渡ってはいませんが、昔の風景を思い出しながら歩くのも楽しいものです。

**里野海水浴場**  
大辺路を歩くお楽しみの一つに、海辺を歩けるというのがあります。海岸に沿って歩けるだろうと浜に降りてみると、やっぱり途中で海を渡ることができずに引き返すということも度々でした。でも、海辺の拾い物をして楽しむのも、一つのおまけと考えましょう。この辺りはサンゴのかけらや貝殻が多く、岩場の景色もたまらなくよくて、車道なんか歩くのはもったいないと思えます。昔、中辺路を急がず、わざわざ大辺路を遠回りして熊野に向かったのは、やはり景色を楽しみたかったからなのです。

いにしへの道 今の道  
よろこび おどろき  
発見の道

高野・熊野へ

# 歩いて見よう 新し道

## 第5回 熊野古道 大辺路

串本～那智勝浦

監修・文：まつした ちえ（わかやま絵本の会代表）

イラスト：いこま わかこ（わかやま絵本の会）



### ちょっとおまけ

#### 串本町

##### 大辺路刈り開き隊

とにかく大辺路は国道を歩いたり、舗装道が続いて、足には辛い道でした。ところが、今、地元の人たちがボランティアで、うずもれた道の草刈りを続けてくれています。古い道は、待っていましたといわんばかりに、昔のままの石畳を現わしてくれました。本来の大辺路がよみがえったのです。那智山まで古い道を刈り開いていけば、割は古道を歩けるようになります。「大辺路刈り開き隊」のボランティアに支えられ、今着々と本来の大辺路がよみがえっています。

##### 橋杭岩

近世、わざわざ遠回りをしてまで、大辺路を歩いて熊野に向かったのは、海辺の景色と、それを見ながら歩ける山道を、たっぴりと楽しめたかったからに違いありません。特に絵を描いたり俳句をひねったりする人びとは、決まって大辺路を歩いています。その日記などを読むと、橋杭岩は日本一の奇観だとあります。地元に住んでいる者にとってはそんなに感動しない景観でも、はるばる歩いて旅する人にとっては、一生の記念になったことでしょう。

#### 古座町

##### 河内祭り

古座川の河口に浮かぶ九龍島のとなりの鯛島には、可愛くてちょっぴり悲しいお話があります。古座の海に住んでいたタイが、大水で流されてきたヘビと一緒に遊んでいるうち好きになりました。でもヘビは上流の清暑島のご神体で、島に帰らねばなりません。タイは涙を流して別れますが、地元の人たちは毎年7月土用に、この島の回りの水を汲んで船に乗せて運び、清暑島にかけてやり、二人を会わせます。これが河内祭り、地元ではこの神様をコウチサマと呼んで大切におまつりしています。河内祭りは農耕のお祭りでもあり、漁業のお祭りでもあるのです。

**くじの川コース** 大きな字でないと書かれへんねん

くじのがわ と書くよ。難しい漢字だら

のどかな田園風景の中をくじの川に沿ってのんびり歩こう...

しばらく進むとくじの川の辻地蔵さん。

**八郎山峠越え** 雑木林が99い良い山道だよ。ちょっと寄り道して峠から山頂に登ると絶景!! 晴れていたら、360度の景色が見渡せるよ。

I LOVE WAKAYAMA!!!

海水と淡水が混ざっている湧きだよ。穏やかだ...

**浦神峠越え** 地元では「庄の坂」ともいうらしいよ。

峠の山でひと休みしたら雑木林の99い下りをのんびり進む。下りきると道標地蔵に出会う。

緑の中だとシマウセ...

**木の本神社**

**里野の浜 (すさみ町)**

**安指一里塚跡**

**徳大明神社**

**浦氏屋敷跡**

**貝岡の道標**

**名前も大ききカワイイ!! 紀伊姫駅**

**古座川**

**河内さま (清暑島)**

**古座神社**

**昔の道がもっと復活するといわね**

**ほら穴の中におまつりされてる立江地蔵**

**草木に埋れた古道を復活させたい!!**と活動する「大辺路刈り開き隊」がこのたび地元のご理解とご協力を得て 和深・田子の古道をみごと復活!! 石階段や堀割も昔の姿をあらわしたよ! ぜひ歩いてみてね。

**くじの川コース**

**潮岬**

**大島**

**橋杭岩**

**ゆかし湯**

**湯川温泉**

**市屋峠越え**

**八郎山峠越え**

**浦神峠越え**

**清水峠越え**

**木の葉神社**

**古座の一里塚跡**

**古座神社**

**堂道の道標地蔵**

**安全運転やでー!**

**国道を走る車を見守っているみたいだよ。**

**市屋峠越え**

市屋峠への上りはそれほど長くはない。峠のお地蔵さんからは、どんどん下っていて、江戸時代に作られた与根子の池へ向かう。

大辺路の詳しいイラストマップ? 「しほに歩こう 熊野古道 大辺路小辺路編」 (わかやま絵本の会発行予定) たち今制作中...

#### 那智勝浦町

##### 与根子池

山や里を歩いていると、昔の人たちが造った灌漑用のため池が今も利用されていることに感動します。人の力で、よくもこんな大仕事をしてくださったと、感謝感謝です。与根子池も、池に奔、溝に10年かかったといひます。池から流れ落ちる小さな滝は、心休まる休憩スポットです。ここから湯川温泉に出るまで、大辺路はグリーンピア南紀の敷地内を横切ることになりますが、閉鎖されたホテルの池には鯉がたくさん泳いでいます。宿泊者を楽しませた鯉は、ホテルが閉じた後は忘れられ、えさを与えられないままです。どこかに引っ越ししているといひのすがー。

##### ゆかし湯

湯川温泉のお湯は、こんこんと湧き出づるつるのいいお湯です。以前の喜代門という旅館が、今は気軽に入れる温泉になっていますが、旅館で働く人がみな色白だったので、ここのお湯はお肌にゼツタイいいのだと思いました。喜代門の経営者と佐藤春夫が知り合いだったために、春夫がここで「なかなか名のらざるこそゆかしけれ...」と歌を読んだことから、この入り江をゆかし湯と呼ぶようになりました。池のほとりに別荘などもあり、ゆったりとしたいい所です。

##### 補陀落渡海

大辺路は田辺から海岸沿いに進み、ここ補陀落山寺から那智のお山に向かって北にゆるやかに登っていきますが、那智の浜は、昔お坊さんたちが浄土ポータルカを目指して船出した浜でもあります。金光坊というお坊さんは、死ぬのが嫌で、閉じ込められた船の板を破って戻ってききましたが、見つけられて再び船に押し込められ海に流されました。補陀落渡海(ふだらくとかい)という自殺行ですが、そのため恨みをもってヨロリという黒いタチウオのような怖い顔をした魚に生まれ変わりました。もちろん伝説ですが、ヨロリはお造りいただくと、なかなか甘くておいしい魚です。

歩きとおせた よろこび  
おまいりできた うれしさ  
すなおに 感謝して

高野・熊野へ

# 歩いて見よう 祈り道

## 第6回 熊野古道 本宮～新宮～那智～本宮

監修・文：まつした ちえ（わかやま絵本の会代表）  
イラスト：いこま わかこ（わかやま絵本の会）



### よっと寄り道

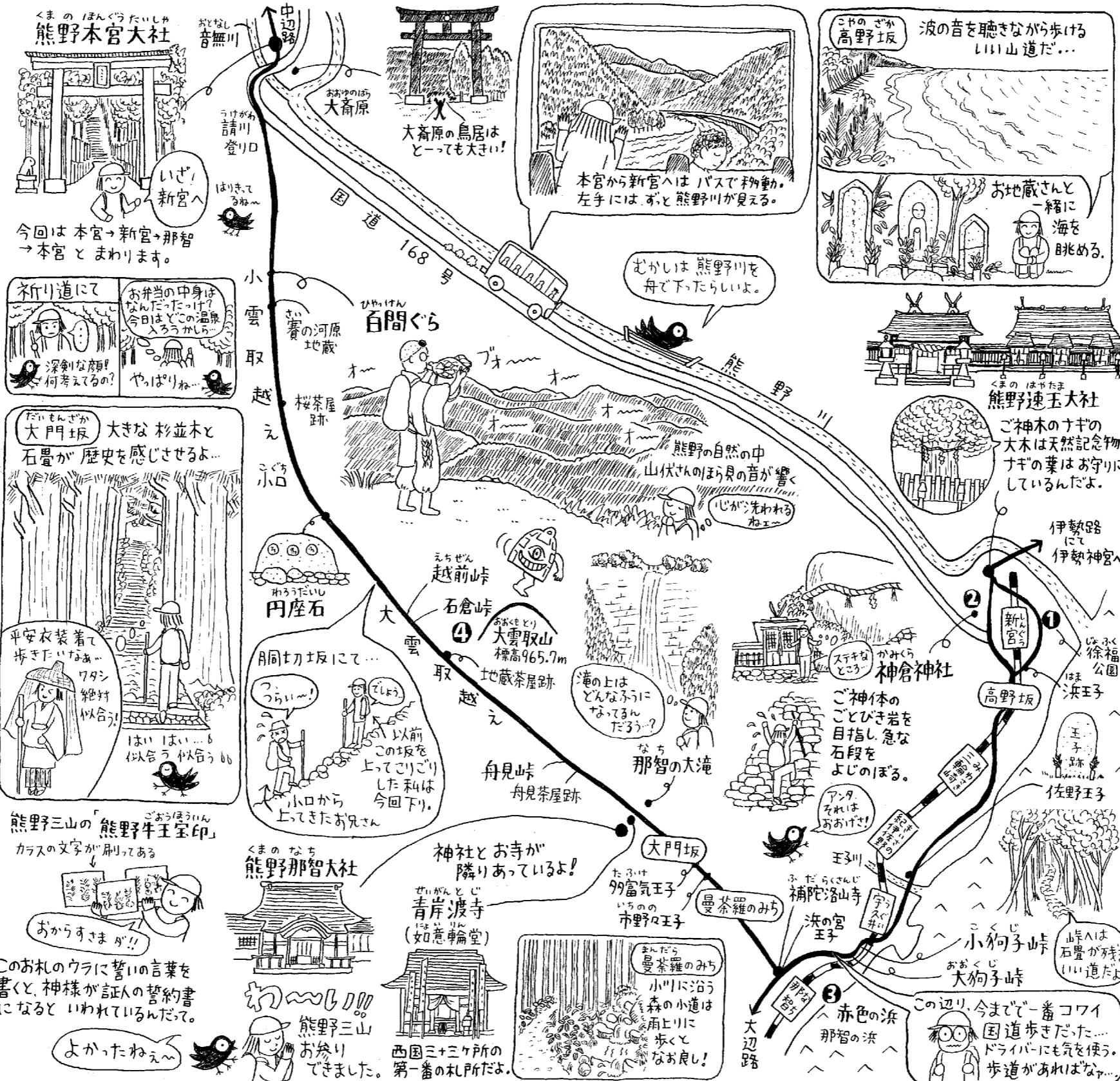
#### 新宮市

##### 徐福の墓

紀元前 219年といわれていますから、今から 2200年 以上も前、秦の始皇帝の「死にたくない」という不可能な望みのために、徐福は蓬萊山を目指して中国から船出しました。徐福たち一行が漂着したのは、江戸時代に書かれた『紀伊名所図絵』によると、新宮から六・七里東の波田須村とありますが、現在の三重県熊野市で、ここにも徐福の墓があります。ここから新宮、本宮、那智のあたりに移り住んだということですが、その土地土地で様々なお国の文化を伝えていったのです。始皇帝は初めて中国を統一し、たくさんの人々をこき使って万里の長城を完成させ、広い道を通し、とてつもなく大きな自分のお墓を造ったりして、やたらと土木工事をし当時の人々を苦しめましたが、それが今、中国の大きな観光資源になっています。自分の欲望のために徐福を東国に派遣したことも、今となっては日本の文化向上に大いに役立ったというわけです。なお不老不死の薬は、新宮ではテンダイウヤク、熊野市ではアシタバだろうといっています。

##### ごとびき岩

「ごとびき」というのは、大きなかえるの方言です。田辺市のひき岩群は、小さなかえるが並んだように見えますが、こちらは大きなかえるが空を向いています。古代から、巨岩や大木には神が宿るとされ、神そのものとして信仰されてきました。熊野速玉大社から南に歩き、少し西に入ったところに「ごとびき岩」がそびえています。53段あるというこの石段を登ってみましょう。山頂の神倉神社に立つと気分爽快です。この神倉神社の境内から、毎年2月6日に、男子たちが灯火をかがけて走りおける「お灯まつり」は、まっ暗な夜空に赤い火が流れ落ちて見え、ほんとうに怪しい魅力ある神事です。下では、女の子たちが「くーん」とキャーキャーいいながら、かけおりにくる男子を迎えています。一番にかけおけると望みが叶うといわれています。



#### 那智勝浦町

##### 赤色の浜

『古事記』の中の巻に、神武天皇の東征の話があります。それによると、九州を出て東に向かった神武軍は、大阪から入ろうとしたがかなわず、兄も失ったことから、これは太陽に向かってからだと思い南下します。和歌山県の海沿いに神武伝説がたくさん残るのはこのためです。ここ赤色の浜も、地元の軍と戦って血を流し、浜が赤く染まったからだといわれます。神武が腰をおろしたという腰掛け石も残されています。結局、熊野川の河口に上陸しますが、そこに大きな熊が現れて神武軍はみな気を失って倒れます。そのとき、夢のおつげを受けた高倉下(たかくらじ)が、自宅の倉の屋根の穴から降った太刀を持って現れます。その太刀のおかげで神武軍は目を覚まし、天から下ったヤタガラスに先導されて、熊野川をさかのぼり奈良に入ったのです。ナゾの多い神話ですが、あちこちで戦いをくりかえし、血を流しながら、日本の最初の天皇になった話です。

##### ひとつダタラ

この春、白浜町で不思議な足跡が田んぼにつき、ひとつダタラかカシャンボかと、全国的な騒ぎになりましたが、いまだにナゾのままです。カッパの冬型のカシャンボと、ひとつダタラまたは一本ダタラが、地域によって同一視されているようです。那智の色川に刑部左衛門をおまつりしている神社がありますが、このお侍がひとつダタラを退治したといわれています。熊野古道は、那智から本宮へ向かうのに、大雲取、小雲取の険しい山道を越えて行きますが、雲を手で取れるくらいに高いというこの山並は、かつてひとつダタラが現れたという伝説の山なのです。たたらとは、鉄や銅を溶かすときに、火を勢よくするためにふいごで風を送りますが、そのことです。その時片目で穴から火をのぞいたり、片足でふいごを踏むので、ひとつ目、一本足の妖怪が生まれたのだらうといわれています。実際に、このあたりは、かつて銅がたくさん採れました。





夢を捨てず 頑張れよ  
 生きることに 励めよ  
 大師の声が 今も聞こえる 高野道

高野・熊野へ

# 歩いて見よう 祈り道

## 第8回 高野山町石道

慈尊院～高野山奥の院

監修・文：まつした ちえ（わかやま絵本の会代表）

イラスト：いこま わかこ（わかやま絵本の会）



### ちょっとおまけ

#### 慈尊院

町石道を歩く人は、たいてい九度山駅で降りて、慈尊院におまいりし、丹生官省符神社から登りはじめます。ここから高野山の大塔までを百八十町に区切り、胎蔵界の仏様を表す梵字を町石に刻んでいます。平安時代に金剛峯寺の「政所」として建てられましたが、厳寒時には、お坊さん達もここに移ったといわれています。また、山火事の多かった高野山からお経や仏具など大切なものを移し、倉庫の役目も果たしました。高野山をハスの花とすると、こちらはその台座です、とお寺の方が話してくれました。案内犬ゴンの二代目も出迎えてくれますよ。

#### お照の墓

絵本『貧女の一燈』の取材で行った時には、なかなか見つけられなかったお照さんのお墓ですが、今は説明板も建てられています。お照は、和泉で養父母に育てられましたが、養父母が相ついで亡くなると、その供養のために、自分の髪の毛を売って小さな灯籠を買い、高野山に納めようとした。ところが、ふもとまで来て女人禁制で登れないことがわかり、がっかりしていると、あるお坊さんが夢に見て迎えに来てくれます。お坊さんに灯籠を托したお照ですが、その日は藪坂長者の万灯籠を納める日で、みすばらしいお照の灯籠を見つけた長者は、それを取りのぞくように言いつけます。その時、急に風が吹いて、長者の万灯籠の火が全部消えてしまいました。ただ一つだけ消えずに残ったのが、お照のともひびでした。お照の真心の火は、今も「貧女の一燈」として奥の院で燃え続けています。

#### 横笛の恋塚

平重盛につかえていた斎藤時頼は、建礼門院につかえていた横笛を一目見て好きになりますが、身分の違いから結婚を反対されて、京都嵯峨野の往生院で出家し、滝口入道と名乗ります。横笛もこれをはかなんで、奈良の法華寺で尼になります。その後、滝口入道は高野山の大円院に入りましたが、それを聞いた横笛は、出家後も

慈尊院から高野山まで 180町石が建っている。町石道

大きい！ 3メートル あります。 163町石の前は眺めパワゴン!!

ここから 始まる!!

180町 100町 10町

カウントダウンしながら進んでしまっただけ。昔の人は1つ1つ拝みながら進んだそうよ。

お遍路さんと出会う！ 四国八十八番札所巡りを終えたその足で町石道を歩き高野山に御礼参りに向かうお兄さん。

スゴイ〜!! 感動!

丹生都比売神社 (わかやま絵本の会 発行) が 詳しいよ。

かつらぎ町 天野

大鼓橋を渡る

横笛の恋塚

お照の墓

高野山に上れなかった女の人たちの悲話が行われている。

ステキな 里だなあ

紀ノ川

慈尊院

180町石

丹生官省符神社

六本杉峠

かつらぎ町 天野

お照の墓

丹生都比売神社

西行堂

二ツ鳥居

この辺りから天野が見下ろせる...

壺末峠

矢立茶屋

袈裟掛石

押上石

大門

町石道来た人

根本大塔から奥の院まで金剛界三十七尊を表して、三十七基(御廟が三十七番目)の町石が建っているよ。

御影堂の前には 三鉢の松。空海が唐から投げた三鉢がかたどられるよ。

壇上伽藍

金剛峯寺

根本大塔

塔内は、曼荼羅を立体的にあらわして建てられている。

金堂

高野七口を巡るコース

見晴しのいい 弁天岳からは たくさんの鳥居をくぐる 下り道だ。

相の浦口付近に まつられている 道分地蔵は 指をさして案内 してくれている!!

大滝口女人堂跡 3くろ首 付近のビューポイントから大塔が見える。むかし高野山に上れなかった女の人たちはここから首を伸ばして拜んだそうよ。

ホントいい歩いたよね...

今までたくさん歩いてきた道中で、いくつものお大師さまの石像に出会ったよ。

高野三山巡り

黒河峠

摩尼山

転軸山

奥の院 弘法大師御廟

までの参道は杉の大木や沢山の 大塔が並び長い歴史を感じさせ。 お大師さまが参詣する人々を 迎えてくれる(無明ノ橋)まで 迎えてくれると信じられている。

この奥の火燈籠堂には、沢山の 火燈籠の中に「貧女の一燈」がある。

思慕の念が強く、天野まで来て、いつか会えると、ここで暮らしはじめました。ところが、急な病で横笛は十九歳で亡くなってしまいます。その化身が女人禁制の高野山に驚となって飛び、大円院の梅の木にとまっては、悲しそうにさえずっていたといわれています。ある日、驚はとうとう井戸に落ちて死んでしまいました。夢で、驚が横笛の化身だと知った滝口入道は、驚の亡骸を自分で刻んだ阿弥陀如来の胎内に納め、供養したといわれています。悲しい話ですね。

女人道

女人道というのは、女の人たちが女人禁制で(明治5年まで)高野山に入れなかったため、七つの入口にあった女人堂をぐるりと一周した道です。今は女人堂はたったひとつ、不動坂口にしかなかったりしていませんが、高野七口とあって、高野山に登る七つの登り口全てに女人堂がありました。七つの登り口とは、高野街道西口(大門口)、龍神街道湯川口、熊野街道相の浦口、熊野街道大滝口(熊野に向かう小辺路と交わっています)、大峯街道東口、大和街道黒河川(くろくぐち)そして京街道不動坂口(学文路口)です。女人道を巡る場合、たいていは不動坂口の女人堂をスタートして南の山に登り、弁天岳を過ぎて大門に出て、そのまま南に入り一願地蔵から東へ回り、真別所の前を通り過ぎて、中の橋の駐車場に出ます。そこから北へ向かい、摩尼山、楊柳山、転軸山の三山を巡ります。山が高いので結構歩きごたえがあります。

奥の院

灯籠堂の奥が空海の御廟になっていますが、ここは撮影禁止です。冬、一面の真っ白い雪景色の中、金色のハスの花に積もった雪を見たときには、しびれてしまいました。「大師は今もおわします」高野山を歩くと、空海は、そこかしこにいて、今もわたしたちを見守り、生きる智恵と勇気を与えてくれていると実感します。